

『すてきなしくみ「税金」』

町田市立町田第二中学校 3学年 文城 明子

私たちの暮らしは、税金によって成り立っているといっても過言ではないだろう。生活に欠かせないごみの収集や警察・消防、国や自治体の役場などは、全て税金によって運営されている。公立の小中学校では授業料を支払う必要がなく、病院を受診した際の医療費の負担額は、助成制度の為、より少なくてすむ。その他にも、道路の整備、都営地下鉄の運営、一昨行われた全世帯への十万円給付など、例を挙げればきりが無い。私ももちろん、その恩恵を受けている一人である。

私は幼い頃から、図書館をよく利用してきた。父・母・私のカードを使って、三人分の上限六十冊を毎回借りていたときもある。長い間図書館を利用して本を読んだことで得たものは大きく、出会った本によって様々な世界をかいま見、視野が広がったのはもちろん、集中力や文章を速く読む力などもついて、学校での学習にもとても役立っていると思う。母が私のための図書館通いを始めてくれたきっかけは、父が娘（私）かわいさのあまり、一冊二千元以上もする高価な絵本を三週連続で買ってきてくれたことだそう。母は、このペースで絵本を買ってこられてはたまらないと思い、しかしその本をとて楽しそうに嬉しそうに読んでいる私の姿を見て、

何とかしなければと思ったそう。そうして図書館を利用するようになり、借りてきた絵本に日々ふれて過ごすようになると、私はますます本が好きになり、買っていたらとてもおいつかないほど。どんな本を読むようになっていった。おかげで母は図書館通いをやめることができなくなり、パートの合間をぬって自転車の前後の荷物を絵本でいっぱいにして必死で図書館通いをし続けてくれた。私が中学生になった今は、父が一週間に一度は必ず図書館に行ってくれて、町田市の借出上限一人十冊をフル活用して我が家の読書生活を支えてくれている。

このような私の幼い頃からずっと続く充実した読書生活は、ひとえに両親のおかげということだけを思ってきたが、そもそも税金によって公立図書館というシステムが運営されていることで初めて成り立ち得ていたものなのだ。今回初めて意識した。私の読書生活一つとっても納税者の方々のおかげということになり、いったい今までどれだけ多くの人に支えられて今の自分があるのかと思うと、胸がいっぱいになってしまった。税金は、私たちの生活に欠かせないものを成り立たせている重要なものであると同時に、税金をしっかりと納めることによって自分以外の誰かを支えることができる、とてもすてきなしくみなのだと思う。そのように考えると、将来納税することがなんだか楽しみになってくる。私が大人になったら、働いてしっかりと税金を納めるのはもちろんのこと、今まで自分が気づかないうちに受けてきた税金の恩恵を、社会に還元できるようになりたい。